

「戦後日本の中国政策の模索と日華関係の研究：1950年代を中心に」

目次

序章 研究の課題	1
1、問題関心	1
2、戦後日「中」関係史の先行研究	6
3、本論の構成、研究方法と史料	11
第一章 戦後日華関係の起点：日台通商協定	13
第一節 日台通商協定形成の諸要因	14
1、GHQの貿易管理体制への調整	14
2、五〇年代初期の東アジアをめぐる国際情勢	19
3、アメリカの対台政策の廻旋	23
4、戦後初期の日台貿易関係	26
第二節 日台通商協定の調印	27
1、八月十五日の通商会談	29
2、八月二八日の通商会談の最終回報告	33
3、九月六日の調印	34
小括	37
第二章 戦後日華関係再建としての政治的基盤：日華平和条約	52
第一節 日華平和条約締結への道	52
1、サンフランシスコ講和会議への中国代表招請をめぐる英米の折衝	52
2、「事前交渉」としての米華交渉：「適用範囲」を中心に	54
3、吉田政府の対中「慎重論」	56
4、「吉田書簡」の作成	58
第二節 日華平和条約の締結	63
1、平和条約をめぐる日華交渉	63
2、日華平和条約締結の意義	68
3、日華政治関係としての補完の役割—「日台」通商関係の連続性	69
小括	77
第三章 吉田内閣期の対「中」外交：「等距離外交」から「政経分離」へ	85
第一節 「等距離外交」への模索と挫折	86
第二節 「政経分離」：従来の研究とその問題点	95
小括	104

第四章 鳩山内閣期の「自主外交」路線と日華関係	106
第一節 「自主外交」路線の幕開け	106
1、共産陣営への接近	106
2、「二つの中国」論の提起	110
第二節 「二つの中国」の発言をめぐる日華折衝（一）	112
第三節 「二つの中国」の発言をめぐる日華折衝（二）	122
第四節 日華関係の回復への道：国府親善使節団の訪日経緯	126
小括	131
第五章 岸内閣期における対華政策	133
第一節 岸外交の登場	133
1、岸外相時期：アジア・太平洋地域公館長会議	133
2、岸首相（兼任外相）時期	136
第二節 日華協力委員会成立への道	138
1、石井光次郎と親善使節団	138
2、国府側の反映と世論の反響	140
3、日華協力委員会の発足	141
4、第一回総会	144
第三節 岸首相の国府訪問	149
1、なぜ、国府を訪問したのか？	149
2、日程調整の経緯	151
3、事前準備作業	154
4、日華首脳会談	157
第四節 第四次日中民間貿易協定の日華関係への影響	163
1、藤山外相の登場と藤山構想（通商代表部の設置と指紋問題）	163
2、第一次（九月二一日～十一月一日）貿易協定交渉と張群特使団の訪日	166
3、第二次（二月二七日～三月五日）貿易協定交渉と調印	170
4、日華両国の対応と日華関係への影響	175
小括	189
終章—結びに	191
参考文献	200